

# 元陣屋資料館友の会の高校生ガイド

心を込めて

## 愛知県からの修学旅行高校生を案内

情報ノート



仙台藩白老元陣屋資料館友の会会員の白老東高校生4人が6月2日、同世代の若者におもてなしの心を込めて、同館の展示資料の解説をしました。



昨年8月に解説デビューを果たした3年生の千葉瑞穂さん、加藤雫さん、今年5月デビューの2年生、船越菜々子さん、堀部京華さんの4人。愛知県春日井市から本道に修学旅行で訪れた県立高蔵寺高校の生徒40人をガイドしました。

昨年から特訓を受け、それぞれが抱負を持って臨んだこの日の本番。同世代へのガイドなだけに「手が



震えました」「声が上ずった」と緊張したようですが、大役を無事終わると「反省点はあったけど、上出来？」と安どの表情でした。

修旅生の反応も「しっかり説明してくれました。ここまで地元について勉強しているのは同じ年なのにすごい！」「友達が解説しているみたいで身近に感じた」などと好評。最後のグループからはガイド後に拍手が湧いていました。

22、23日には白老東高校の後輩をガイドしました。



中央写真：「さようなら」と、バスに乗り込んだ高校生らに手を振り見送る（左から）千葉さん、堀部さん、加藤さん、船越さん

## 地域文化施設で「人」を育てる友の会、教師、資料館スタッフ

愛情ある厳しさでびしびし指導 養う「社会経験」「コミュニケーション能力」



高校生ガイドの指導に当たっている友の会会長の川西政幸さん（79）と宮森知津子さん（74）。指導は厳しいが、心の奥では「この子たちが社会に出た時に少しでも役立てることができたら」という思いがあります。指導は展示資料についての知識習得だけではなく、上下年齢の違う世代への態度、会話能力、周囲への連絡報告、さらには時間厳守など社会ルールまで「びしびしやっています」と笑



川西さんは「これからはお二人のほか、同様な気持ちを持った、同会会員で同高校の教師、資料館スタッフの温かいまなざしがいつも注がれています。川西さんは「いろいろな挫折を味わうでしょう。しかし、そこからやり直す力をつけてほしい」、宮森さんは「笑顔を絶やさず、きれいな所作を覚えてほしい。そこから何かが生まれます」と願っています。